

書評：福島香織『習近平：最後の戦ひ』

徳間書店、2022.6.30, 1600円+税

cf. 福島香織『「文革2.0」の恐怖政治が始つた：中国が世界を廢墟にする』（ビジネス社、2021.8.1）1500円+税

21世紀日亞協會 會長

伊原 吉之助

今後の豫定：単發の書評と、昭和史の講義（獨立テーマで繋ぐ）を混ぜて行きます

- 11月17日 (木)：昭和史Ⅱ：山岡貞次郎『支那事變：その秘められた史實』（原書房、昭和50.8.15）2200円
→ 「廬溝橋の一發」は中共ではなく 中國國民黨藍衣社の策動で始つた……
拙稿「大東亞戦争と支那事變」（『世紀末から見た大東亞戦争』プレジデント社、1991.12.18, 1部1章）
阿羅健一『日中戦争はドイツが仕組んだ』（小學館、2008.12.21）1500円+税
〃 『日中戦争は中國の侵略で始つた』（悟空出版、2016.3.1）920円+税
- 12月 日：昭和史Ⅲ：海軍軍縮と五一五事件：英米との協調と對立……
林新・堀川恵子『狼の義：新犬養木堂傳』（KADOKAWA、2019.3.23）1900円+税
古島一雄『一老政治家の回想』（中央公論社、昭和26.5.5/44.6.25再版）550円
田中健之『昭和維新』（學研プラス、2016.3.8）2800円+税
- 1月 日：昭和史Ⅳ：世界大不況からの脱出競争とブロック經濟の試練
池田美智子『對日經濟封鎖：日本を追ひ詰めた12年間』（日經新聞社、1992.3.25）
土井泰彦『對日經濟戦争 1939-41』（中央公論事業出版、2002.8.15）3000円+税
- 2月 日：昭和史Ⅴ：我國の總力戰對應と二二六事件
竹村民郎『戦争とフォーティズム：戦間期日本の政治・經濟・社會・文化』（藤原書店、2022.6.10）4800円+税
- 3月 日：昭和史Ⅵ：
このほか、わくわくするやうな興味深い新刊書が續々出てゐますので、どんどん取上げて行きます。
請ふ御期待！

I. 時事問題からの設問：

- (1) 2022.9.20 中共黨員 3人、異例の批判文書 党大會前 權力集中の習近平に“異論”（日々世界 國際情勢分析 桑村 朋、『産経』9.20, 7面）：①10月の中共大會を前に、ヴェテラン黨員 3人が党指導部への權力集中や個人崇拜の動きを批判する文書を發表した。「文革の悲劇を繰返すな」として、黨大會で異例の三期目入りを目指す習近平 総書記（國家主席）を暗に批判したものといわれる。中共黨員がこうした文書を公表するのは珍しく、黨内に習近平への異論が少なからず存在する証左と見えう。②文書は党大會への提案として書かれ、中国の人權問題を扱うサイト「維權網」に8月25日に公表された。黨員歴30年を超える黨員3人の連名で、身分證や携帯電話の番號も掲載。身分證番號から3人は河北省在住といわれる。署名と共に指印も捺され、“本氣度”が傳わってくる。③文書は計4枚あり、1枚目の提案では「『党政軍民學』と「東西南北中」の一切を党が指導する」という黨規約の文言の削除を求めた。毛澤東が文革時代の1970年代に使った文言で、習近平の名を冠した理念が黨規約に追加された2017年の前回黨大會で盛り込まれた。④文書は「当委員會の權力が過大になり、その範圍が廣くなっている」と問題視する。黨幹部の収入が民

衆より大幅に高く、党指導下の司法が新型コロナウイルス対応の責任を誰一人問うていないなど批判。「憲法が党に与えた権力は無限ではない」とし、党と政府の分離などを提言した。⑤二つ目に挙げたのが党規約に明記された「個人崇拜の禁止」の“有名無実化”だ。「本當に禁止したければ、相應の制裁や罰則を設けることが必要だ」と指摘し、「さもなくば文革の悲劇が繰返される可能性がある」と訴えている。⑥習政権は体制に批判的な言論を封殺する姿勢を強めており、今回の文書も公表後すぐ中国で閲覧できなくなった。維権網は「三人は嚴重な監視下にあり、いつでも身に危険が及ぶ可能性がある」と傳えた。⑦國際人權團體「セーフガード・ファイブーンズ」は9月6日、習政権下で個人が自宅軟禁された事例が数十万件に達したとする報告書を出した。刑事訴訟法の改正で當局は最大6ヶ月、恣意的な自宅軟禁が可能になったと指摘。今後3年間で100歳を超える恐れありと予測した。⑧他方、省政府トップの在任期間も急激に短期化している。米ブルームバーグ通信は3月、米ブルッキングス研究所の調査として、党幹部が擔う省政府トップの平均在任期間が2021年時点で1.6年となり、集計を始めた1985年以降で最短となったと報じた。⑨習政権の「反腐敗運動」が影響したようだ。今年に入り、天津市長や河北省副省长、遼寧省大連市副市长らが相次ぎ急死。公には「病氣」となっているが、反腐敗の重圧を受けて自殺した見込みも噂されている。⑩習指導部は治安部門の取締りを強め、党中央紀律検査委員會は9月1日、習指導部への忠誠心の缺如があったとし、國家安全部幹部を集めた劉彦平の黨籍と公職を剥奪、1ヶ月で習氏と近い王小洪を公安相に据えるなど、黨大會に向け権力固めと政敵排除への追込みをかけている。⑪今回の文書を報じた米紙の記者は「習近平の個人崇拜が作り上げられかけている」と指摘。指導者の神格化は災難を齎すと警鐘を鳴らした。

(2) 習政権3期目は「動亂と戦争」か(評のChina Watch, 『経経』9.15, 13面): ①今月6日、世界的な影響力を持つ米国外交専門誌『フォーリン・アフェアーズ』は、中共中央党校の元教授、蔡霞氏の長文の寄稿を掲載した。題目は「習近平の弱点 狂妄と偏執がいかんして中国の未来を脅かすのか」。「中央党校」は、中共中央委直属の高級幹部養成機関。習政権は國家主席時代に中央党校の校長を兼任していたこともあり、同校教授だった蔡氏は、内側から習主席の言動を直接観察できた一人である。②2020年6月、内輪の会合で習主席を厳しく批判した発言の録音がネット上で拡散されたことで蔡氏は国内外で注目を集め、昨年8月、彼女は中央党校から黨籍剥奪の厳しい処分を受けた。蔡氏は現在、アメリカに亡命中である。10月開催の共産黨大會を目前に、米国の権威ある専門誌が蔡氏の「習近平批判」を掲載したことは当然、大いに注目すべきである。③蔡氏はまず、中央党校教授時代の見聞や自らの観察に基いて、習主席の人となりや性格などについて分析している。彼女の結論＝自らの学歴や知的レベルに対するコンプレックスから發する「虚栄」と「偏執」が習主席の個人的特質であって、そこから生じたのは、いかなる異った意見にも耳を貸さぬ、いかなる反対意見も許さぬという習主席の政治的スタイルである。④蔡氏から見て、習主席がこのような指導者だからこそ、習政権下のこの10年間、内政と外交上の失敗が重なって今の中国は正に内憂外患の最中にあり、中共幹部と民衆の間で習主席に対する失望や反撥が擴っている。それでも習主席はあらゆる権謀術数を弄して次の黨大會を乗越え、念願の續投を獲得する見込みは極めて大、と蔡氏はいう。問題は續投が決る黨大會後の5年間、「狂妄と偏執」の独裁者習主席が一体何をやらかすか、である。それについて蔡氏は極めて悲観的な見方を示している。⑤曰く、黨大會の前に習主席は自らの續投を確保するため、党内各派閥と一定の妥協を行っている。だが、一旦續投が決り、政権の三期目に入ると、習主席は恐らく政治的野心を今まで以上に膨らませ、益々独断専行してやりたい放題の獨裁政治を行うであろう、と。こうした中で、習近平路線下の中央集權的經濟政策の推進や社會に対する統制の強化が極力圖られ、南海の軍事化が進み、台灣併合も強行されよう。⑥しかしそれでは党内と民衆の不満と反撥は益々激化し、中国国内の情勢はより層不安定となる。そして(政敵の誤りにより)經濟危機が発生し、社會的動亂が迫る中、戦争發動の危険性も高まってくる。このような悪循環に終止符を打つ見込みにつき、蔡氏寄稿は最後に、習近平路線を終結させる唯一の道は「戦争」だと指摘する。つまり習主席が對台併合戦争を發動し、それが失敗に終われば習主席は崩壊する、と見ているのだ。以上が、蔡氏寄稿が

予見した「動亂と戦争と崩壊の習政権3期目」である。⑦中共政権の内實をよく知る中央黨校元教授の分析だけに、我々にとって大いに参考になる。何れにしても、今秋からの習政権3期目の5年間には中国と周辺国にとっても「多事の秋」ときなことは間違いないし、中国国内における動亂の発生や、對台併合戦争發動の危険性は頗る高いと思う。我々としても、「習政権3期目」にどう對處するのか、今から眞剣に考えておかねばならない。

(3) (読者の声3) (メルマガ「宮崎正弘の國際情勢解説」No.7476/9.27 (火)より)：戦争でもないのに戦後処理とは何ぞや。実は、先日の日銀による「大規模な近年稀にみる介入」とは、その影響力に於て真珠湾攻撃に等しい。今回は外地での蛮行ではなく、日本人民の財産に対する破壊攻撃の違いがある。金融史では、この政策は必ず負ける、という恐ろしい眞実がある。

それを報道しては徒に人民を惑わすので、秘密にされ、公には「心配するな。政府・日銀様を信じなさい」と言っておいて、或日、令和x年、8月15日(日)の午後、世界に「病名・死因と処方箋・遺体処理」が通達される。敗戦宣言だが、「本日を以て日本円とドル、または金との比率を暫定的に変更致します」

予想するに、前日の8月14日は、1ドルが390円に暴落しており、再び大きな介入が噂されていたが、翌日の16日には千円台に落ち、月末には一万円を超え、日銀は渋沢栄一氏の「新一万円札」を約1ドルとし、「従来の100枚の1万円札に對して、新札一枚を交換・発行する」と。此の際、従来の紙幣、硬貨は廢止、デジタル・暗号通貨を使用。

この大規模突然の変化は、歴史上繰返されて来た。極めて現実的で必然で必要であり、この変換には、
1. 突然に予告なしに行われぬと大混乱になる。怪我人が出たり、暴動で銀行が攻撃されたりする。
2. 日本円現金を多く隠し持っている者は、財産が100分の1に減る。
3. 円建ての債権(負債・借金)もほぼ無価値になり、国・官民の財政が健全になる。事実上の徳政令。国債を持っていた者は損をするが、日本政府は、借金をチャラにして破産宣告をして、新しい人生を始める機会を得る。

4. これは、非情な理不尽な仕打ちに見えるが、この敗戦処理を迅速に行わないと、通貨の存在せぬ状態となり、全ての国内、対国外の経済活動が止ってしまう。通貨の無い国は崩壊する。

ポール・ヴォルカー氏は、アメリカの経済学者、カター政権下、1980年に第12代連邦準備制度理事会(FRB)議長を務めた。高インフレに對処するため、金利を大幅に引上げインフレを封じ込めた功績で知られる。氏はある日、カター大統領を訪ね、「国債の買手・引受人が消えました。いかが致しましょうか」

信用ある金持は安い金利で借りられるが、資産のない貧乏人は高い金利を払わぬと資金が得られない。つまり当時の米国の信用は落ち、高い金利をつけぬと借金できない状態にあった。そこで10年国債の金利が20%に達する。

それから50年、日本で数日前、同様な恐ろしい現象が現れた。東京円債市場で新発10年国債の業者間取引が、前日に続いて成立せず。2営業日連続で売買未成立となるのは、1999年3月以降。落ちぶれたと言っても世界第3位の経済大国の国債を誰も買ってくれない。

数千年の世界の金利を調べると、10年ものでは、どこの国でも、どの時代でも、平時には5%~7%位になっている。いかに信用ある借り手でも、事業が失敗したり本人が死んだり、天候が狂ったりで、必ずリスク・損を負う故に、金利ゼロ、タダで金を貸すバカはいない。

この現実を、自信過剰な政治家・経済学者どもは大胆に無視し、自己の能力・影響力を過信し、日銀は「指し値オペ」で、10年金利を「イールドカーブ・コントロール(YCC)」「許容変動幅「上限」の0.25%」で抑え込んでいると勝手に信じているが、これは飛行機設計者が、重力を1/10と仮定して飛行機を製造し運営するような不遜な態度であり、何れ公平で非情な重力は本来の力で墜落させることになる。

日銀などの指導者は、自身の資産の運用を公表すべきではないか。「言行一致」か、国民は知るべし。議員の特権で、事前に得た情報で儲ける政治家も多い。(在米のKM生)

II. 福島香織『習近平：最後の戦ひ』：ゼロコロナ、錯綜する経済——失策續きの権力者……習近平の獨裁體制繼續は、中國を徹底的に破壊する!!!!……

(1) 下放された習近平の決意と備へ：

- ① cf. 遠藤 譽『習近平：父を破滅させた鄧小平への復讐』（ビジネス社、2021. 4. 1） 1800圓+税
尊敬する父は毛澤東に失脚させられ、苦難の生涯を送った
自分も中學時代以降、文革で農村に下放させられ、苦難をなめた
意欲はある：「権力」が全てと身に染みて悟る……
- ② 地位を得るまでは目立たぬやうに／常に軍と關係を保つ／権力を得たら有力者を潰す……
- ③ 足りぬもの：指導者たる見識（これが無いと指導者の地位を保てない）／有能で獻身的な子分

(2) 福島香織『習近平』の構成と大意：

第一章 習近平を客觀論評す

- 10頁 評 失脚の予言書：今年2月、「方舟と中國」雜誌の「習近平を客觀論評す」 4萬字の 敵 出る
- 12頁 評 には 獨裁者に必要な 加害性がない。凡庸とみる意見の方が多い
- 13頁 彭麗媛・習近平の知合ひ曰く、「二人とも田舎者でつまらぬ俗物」
- 14頁 最初の妻 柯玲玲「父親が居ないと何も出来ぬ男」「嘘ばつかりの人」
李銳「知性は小學校レベル」
- 15頁 「深い不安と焦りの表情……」 ← 根深い“自信の無さ”の顯れ
指導者としての天賦の才・資質の缺如……加害性の無さ……
- 17頁 演説の途中で、小學生でも知るやうな四字熟語や中國古典の名言を屢読み間違つたり、原稿の同じ頁を二度繰返し讀んだり……想定問答集にない質問を記者から受けて答へられなかつたり……
相當頭が悪いのではないか……
習近平は それほど健康でもなければ、スポーツマン でもない……下放時に肉体を酷使した後遺症あり
- 18頁 壇上で何もないのによろめいたり、足を引きずつたり……
- 19頁 習近平新時代思想の誤謬：評 の 政治思想 は 過去の焼直し・物真似……
- 23頁 人類運命共同體／管理監督強化・密告獎勵の恐怖政治／戦狼外交 → これが習近平思想……？
- 25頁 習近平のコンプレックス：自信のない コンプレックス の 強い指導者……
- 29頁 肩書だらけの習近平：中央軍委聯合合作指揮センター總指揮／中央國家安全委主席／中央全面深化改革指導小組組長／中共軍委深化國防軍隊改革小組組長／中央ネット安全情報指導小組組長／中央外事指導小組組長／中央對台工作指導小組組長／中央財經指導小組組長 etc.
→ 本當 の 加害 は 肩書に頼らない……
- 30頁 習近平政権の10年：鄧小平の遺産（改革開放路線）をぶつ潰してきた
逆走路線：對外では、韜光養晦 → 戦狼外交……
對内では、全權を掌握して専制支配體制を目指す……
- 31頁 権力集中のためには經濟後退も厭はず……／西側に經濟依存せず……
→ 伊原註：西側との經濟交流のお蔭で中共政権が興隆できた筈だが……
- 33頁 習近平の目的：「國家の發展・繁榮」でなく、「自己への権力集中」のみ……
- 34頁 反中勢力は「習近平に連任して貰ひ、中共體制を徹底破壊して貰はう」と望む……
- 35頁 獨裁者は「プロパガンダの自家中毒」に罹り易い → 客觀的情報や評價が届かなくなる……
- 36頁 2019. 11. 24 香港の區議選舉は親中派の壓勝と信じてゐたらしい……香港人は反中デモに反撥してゐる……と聞かされてゐたから…… → 實際は「民主派壓勝／親中派慘敗」

- 40頁 習近平は疑ひなくプロパガンダの自家中毒にかかつてゐる……
今年 3月~5月 の自殺的な「上海市ロックダウン」も獨裁者の自家中毒行動の一つ……
- 42頁 皇帝氣取りの三度目の歴史決議（2021年11月8日~11日 開催 の 六中全會で）：冗長で 不可欠な決議
一度目：1945年。毛澤東のソ聯派の王明に對する勝利宣言：毛澤東獨裁確立宣言
二度目：1981年、鄧小平の華國鋒に對する勝利宣言：鄧小平の主導權確保宣言
三度目の習近平の歴史決議は、「改革開放終結宣言」らしいが……
- 47頁 この“獨善的”歴史決議の底の淺さに、習近平の權力は袁世凱並に短命と見る意見も多い……
- 51頁 習近平は中國に民主化を齎すといふ逆説
- 52頁 習近平の暴君ぶり、獨裁者ぶりは既に、文革期の毛澤東の域に達してゐる……
- 52頁 習近平は三期目連任が叶つても、その權力は五年も保たぬかも知れない……
- 54頁 習近平にもう五年任せれば、確實に中國と中國人をどん底に突き落してくれよう……
- 55頁 「方舟と中國」論文の末尾に曰く、
「習近平の民主化への道」といふ逆説：習近平の治世には *ダメージ* が 中共統治の根幹を侵蝕中……
明かに、習近平は多くの點で「黨の退路」を斷つた……
習近平が逆説的手法で中共體制顛覆を圖つてゐるのなら、目的達成の見込みは頗る大……
- 56頁 習近平は、民主化運動家がし損じたことを達成できるかも知れない……

第二章 北京冬季五輪は成功したのか

- 58頁 五輪開催前の暗雲：彭帥失踪問題
新疆ウイグル人 *チェンナイ*問題を抱える人権侵害國家に、平和とスポーツの 祭典を催す資格ありや……???
- 67頁 中國がいつも簡単に人を失踪させる失踪人民共和國であることを世界が再確認……
北京冬季五輪は中國コロナ禍を擴大させた
- 72頁 グロテスクな専制國家のプロパガンダ：グロテスクな開會式……頗る政治的な演出……
- 76頁 習近平が目指す「權力者に絶対齒向かはぬ社會」→ 家畜の安寧……
- 78頁 北京冬季五輪の經濟的失敗
- 84頁 五輪のルールを支配した中國：怪しいチャッチが相次ぐ……
- 86頁 「俺様ルール」を周圍に押しつけてきた中共：尖閣諸島然り、*南海* 然り……
- 88頁 殆どの人達が北京冬季五輪を通じて、中國が *ルールメーカー* になることの危ふさ、恐ろしさを再認識した

第三章 ゼロコロナ政策の失敗

- 90頁 五輪後も續くゼロコロナ政策：西安の悲劇……隔離施設送り／物流途絶による 食糧不足・高騰……
- 94頁 醫療崩壊が命を奪ふ……専制國家には *融通*の利かない「ゼロコロナ」政策……
- 96頁 上海の阿鼻叫喚……ひきもきらぬ餓死の噂……自分の大便を食べる老人……飛び降り自殺續出……
- 105頁 「立ち上がれ！ 奴隷になることを望まぬ人々よ！」と國歌を歌ふ者もゐた……
- 107頁 ゼロコロナ政策の經濟ショック……コンテナ船大澁滞……業務過多と感染リスク回避のため 27日間 運轉席から降りられなかつた *トラック運轉手*……
- 113頁 *ウイグル* に 轉換したら 何が起きるか → 三期目連任に陰がさす……
- 118頁 權力闘争としてのゼロコロナ政策：李克強 は *ゼロコロナ*緩和派……／上海は習近平の敵地……
- 126頁 反骨の *ロック*崔健の *コンサート*が 刺戟する自由希求の聲：
- 134頁 曾て天安門廣場で若者達が自由と民主を求めたあの激しい運動が再び中國で起きるとしたら、*ロック*

ウ明けの上海ではないか……ゼロコロナ政策に於る 習近平の敗北は、中国大衆を目覚めさせる可能性を孕んでゐる……

第四章 ウクライナ戦争で漁夫の利を得るのか

- 136頁 習近平はプーチン推し……ロシアもウクライナも中国の「一帯一路」の重要據點
- 139頁 中国、ウクライナ、ロシアの微妙な関係……習近平の過剰なロシア肩入れに政治局常務委員の中でも反撥が強い……中国はこれまでウクライナに大量投資……ウクライナインフラ連は中国の兵器開発に大貢献……
- 145頁 ウクライナとロシアの間で中国が揉めるのは当然……
- 台湾をめぐるロシアとの矛盾：中共内にロシアに肩入れする習近平への反撥がある もう一つの理由：「台湾併合ロシアと矛盾する」。中国の外交原則：国家の主権・領土の完全性の維持
この論理に反するので、ロシアによるクリミア併合を中共は承認してゐない：クリミアは中国が主権国家と認めるウクライナの一部。同じ理屈でウクライナ東部の分割や独立も承認できない……
- 146頁 ロシアのウクライナ侵攻は独立国ウクライナの内戦に干渉したといふこと
∴ロシアのウクライナ侵攻を認めると、中共の台湾併合に干渉する米國に反対できなくなる!!!
- 147頁 習近平政権下で中露関係は蜜月時代を迎える：2022. 2. 4 「新時代の国際関係と持続可能なグローバル発展に関する共同聲明」
- (1) 民主も人権も各國の歴史と傳統に育まれたもの。歐米が押付けるものに非ず
 - (2) 中露を中心とした新國際社會枠組モデル「ユーラシア經濟聯合」のリンクを打出す
 - (3) 安保構造：露が「一中」原則支持。中はNATO擴大に反対、反テロで一致
 - (4) 露中が國聯安保理常任理事國であることを強調。II 大戰後の成果の否定に反対
- プーチンが習近平のスローガン「人類運命共同體の構築」に乗つかせる形で國際社會の再構築へ
- 經濟的枠組：一帯一路 + ユーラシア經濟聯合
安保枠組：國聯中心 + インドを含めた SCO による安保の枠組
- 151頁 軍事力二位と三位が共同聲明を出し、軍事・經濟一位の米國を名指し批判
ウクライナ戦争：新たな國際社會の枠組再構築ゲームの基盤を經濟から軍事にシフトさせた事件
習近平の思惑：プーチンは予定通りゼレンスキーを忽ち追出してウクライナを制圧……
自分も秋に台湾を侵攻し、中露の連携で歐洲とアジアの安保枠組を再構築する……つもり？
- 152頁 ウクライナ侵攻、台湾侵攻の時間差作戦を考へてゐた……？
米歐の對露經濟制裁は中国にとって危機か好機か
中共内で、習近平のプーチンへの過剰な肩入れに抵抗する別の理由：西側の對露制裁に中共が捲込まれることへの恐怖：米英歐（伊獨佛）加は2022. 2. 26, ロシアをSWIFT（國際銀行間通信協會）
- 153頁 から排除することに合意。→ドル決済ができなくなる
- 154頁 中国の經濟官僚の經濟優先の立場：高々韓國規模のロシア經濟市場に固執してSWIFTから弾き出される譯に行かない。中国經濟は世界の隅々まで浸透しており、SWIFTから弾き出されれば立ち行かない
- 155頁 この逆境は好機……？ ここでロシアに恩を賣れば、ロシア主導の「ユーラシア經濟聯合」の影響力を奪へるかも知れない……
- 157頁 對露制裁は人民元基軸體制への追風になる？
習政権の野望：中共が主導する「人類運命共同體」の構築（中華民族の偉大なる復興）
そのため今世紀中葉までに、經濟的・軍事的に米國に匹敵する社會主義現代強國になること
その道筋が中華秩序による世界經濟一體化構想「一帯一路」
- 160頁 コモディティ經濟圏への回歸現象

- 歐米でも、ドル基軸の金融システムの弱体化に備へる議論が出始めてゐる……
- 164頁 中国のロシア・ウクライナ戦争の停戦仲介はあり得るか
- 168頁 中国の「プーチン切り捨て」の可能性は？
 國務院シンクタンクの著名学者 胡偉の2022年3月5日附 提言「中国はロシアと縁を切り、西側につけ」
 その前提：ロシア・ウクライナ戦争は長引き、露に勝算なし → 露は破滅し、大國の地位から轉落……
 西側の對中包圍網が強まり、軍事的のみならず、西側の制度と價值觀の挑戰に直面……
- 171頁 結論：だから早期に「露といふ荷物を降ろすべし」「中国は世界の主流側に立ち、孤立を避けよ」
- 173頁 この胡偉の提言はネットで一時擴散した後、削除。だが党内高級筋に同調者が少なからず存在……
- 174頁 中国の選擇：ロシアの生死の鍵を握る／國際秩序の未來の形を左右する……
 中共の習近平 vs. 反習近平の權力闘争の行方と直結してゐる……

第五章 中国が台湾武力侵攻を仕掛ける日

- 176頁 經濟制裁で中国の台湾武力侵攻は阻止できない
 2022年4月22日 北京で緊急討議開催：財政・金融・銀行部門のトップを招集
 中共が台湾に武力侵攻した場合、西側の對中經濟制裁にどう對應するかとの對策會議
- 179頁 習近平は制裁を恐れず（人民が困るだけ）、台湾併合の効果しか考へてゐない……
- 181頁 英米が3月初めに台湾有事に關する對應を協議：「經濟制裁では中共の軍事侵略は抑止できない」
 「頼れるのは同盟による軍事戰略である」
- 183頁 台湾を中国の脅威から米・NATOの核の傘で守る
- 187頁 中共が台湾武力侵攻の口實にする6條件：(1)獨立宣言、(2)獨立を問う住民投票の實施、(3)外國軍の駐在、(4)核開發、(5)對中攻撃、(6)暴動發生。
- 188頁 問題：習近平が、自分の任期内に統一すると決めてゐること（毛澤東もできなかつた課題）
- 189頁 → 台湾が「現状維持」を續けるのは危険！統一を待つことになるから
 行政院長の王金平 → 立法院長の王金平
- 190頁 劉亞洲の失踪：台湾武統反對派の消失 → 習近平の台湾統一策は、米國との衝突の道……
 劉亞洲は親米派の軍人、米軍と戦へば負けるから、台湾武力侵攻にも反對……
- 196頁 中共崩壞の危険も指摘 → 最近、弟と共に姿を消した……
- 199頁 2022年秋、台湾戦争が起きる？ → ロシアのウクライナでの苦戦ぶりを見て、中共は台湾侵攻を躊躇？
- 205頁 → 起きるかどうかは、中共党内・軍内での權力闘争の進み具合で決る……？
- 206頁 習近平はロシア・ウクライナ戦争の教訓をどう汲み取るのか？
- 209頁 ウクライナ戦争に於るウクライナの頑強な抵抗に焦りと不安を感じる習近平周邊……
- 211頁 何れにせよ、習近平の「最後の戦ひ」となる對台武力侵攻に西側はどう對處すべきか……？

第六章 さらに經濟

- 214頁 恒大騒動は一種の「革命」 → 中国に於る不動産バブルの崩壞の始り……
- 222頁 經濟政策の錯綜／不動産バブルの圧縮政策 → 不動産黄金時代の終り……
- 228頁 中国不動産の異様な高價格：東京 10/NY 7/北京 41・上海 32・廣州 28・深圳 41
 中共の經濟は土地資源經濟に依存し過ぎ／權力闘争が絡み、淘汰さるべき企業が淘汰されない
- 229頁 双碳（ダブルカーボン＝氣候温暖化）政策・双減政策（教育政策で宿題・塾を禁止）の破壊力
 各地で深刻な電力不足が發生／塾・學習支援事業のヤミ化

高學歷失業者が急増……

233頁 馬雲が敵視されるわけ：習近平の金融政策を批判してゐた……／資金源は江澤民派……

237頁 孫大午、張徳武ら農民企業家も肅清：罪名＝挑發罪、違法拘留罪、共謀入札罪、高利又貸罪、國家機關に對する集團衝突罪etc. → 同情の聲、頻り

242頁 「共同富裕」と「先富者」からの富の收奪 → 極權政治による富の搾取
習近平の「民營企業家苛め」→ 習近平にとっては“政治的脅威”だから……

245頁 社會主義經濟が求めるのは従順な労働者と愛國企業のみ

248頁 經濟成長時代との訣別と中産階級潰し → 殖え過ぎた高學歷者の壓縮作業

第七省 最大の敵は社會不滿を募らせる人民か

252頁 鎖でつながれた8人の子供の母親事件 → 人の世の出來事とは到底思へぬ悲惨な事態……
「悪いのは誰か？」→ 8割以上の回答が「中國政府と中國共產黨體制」

262頁 東方航空機墜落事故の疑惑 → 人災：迫害されてゐた副機長の報復自殺説

268頁 人口減少と急激な少子高齢化 → 人口ボーナス期に入った中國の重荷 + 高學歷社會の重荷……
何れ來る“人口急減期”……

277頁 プロナタリズム（出産奨励主義）政策に轉換するのか？

282頁 激化するウイグル・チェノサイド → 今世紀最大の「チェノサイド」が起きてゐる……
習主席直々の肝入り政策！

288頁 宗教の怖さ：ウイグル・チベットの結果の固さを維持してゐるのは宗教……

宗教を「阿片」として恐れるのが共產主義者連……宗教は、政權を倒す力量あり……

293頁 宗教は、中共の壓制に苦しむ人達の救ひの據り所になつてゐる……

習近平の敵は“人民”……習近平の最後の戦ひは“人民との戦ひ”……

第八章 權力闘争の行方：鍵は黨内の權力闘争……

296頁 孫力軍事件は延焼する

習近平が三期目連任できるか否かの鍵＝公安部の肅清如何（周永康の殘黨整理問題）

自ら公安次官に上げた孫力軍が周永康と繋る人物であつたこと……

幾ら人を替へても“反習近平人材”を一掃できない……

習近平は未だ公安部門を掌握仕切れてゐない……

302頁 元司法相・傅政華の双開（黨籍・公職の剥奪）

軍については辛うじて内部の反撥を押え込んでゐるが、公安は握り込めてゐない……

307頁 習近平の文革しぐさ

308頁 習近平はかねてから病氣説（腦動脈瘤説）があり、手術が必要と言はれてゐる……

309頁 習近平語録の「紅寶書」（毛澤東語録）

313頁 にはかに盛り上がる李克強總書記待望論

老灯がYouTube番組で「國家安全全部筋からの情報」なるものを掲載……

「5月2日 中央政治局常務委員會擴大會議が招集され、習近平は權力を放棄して秋の黨大會で引退、李克強に總書記の座を譲ると決めた。習近平はゼロサム政策の過激な進め方、ウクライナ戦争でのプーチンとの準同盟化の失敗などで窮地に陥つてゐる。全國の政治經濟情勢が大きく亂れ、黨内各級の指導者も我慢の限界……中共の集團指導體制は消滅の危機に瀕することになる。そこで黨内では江澤民、

曾慶紅、胡錦濤ら長老連が協力して、黨・政府・軍・警察の實力人物を説得の上支持を得て、政治局擴大會議を開催した。その席上、習近平に壓力をかけて權力放棄を迫り、第20回黨大會で正式に引退するやう迫った……」

(1) これは フェイクニュース だが、黨員の多くが、本來の仕來り通り習近平が二期で引退するやう願つてゐること、それが一番、中國にとつても國際社會にとつても、最も穩便で現實的な習近平の幕引き材料と思ふだけの説得力があることを示してゐる……慣例に従つておとなしく引退して愆しいとの願ひは、恐らく黨内の主要官僚達の本音ではなからうか……

(2) 習近平が去つても問題は残る。習近平は後繼者を育成してゐない。そこで李克強後繼説が登場する……

(3) 習近平に自身の無能さを何とか判らせたいといふ思ひが、かういふ根も葉もない噂になつて擴つてゐるのかも知れない……

318頁 上海閥を代表する韓正：中共に二大派閥あり

共青團派：胡錦濤・李克強・汪洋・胡春華ら

上海 閥：江澤民・曾慶紅ら（中國版リカビ 權貴族）

319頁 今の上海市トップ（党委書記）は李強。習近平に忠實な子飼の部下。だが、習近平の命に従ひ ゼロ成長政策を堅持したため、上海市經濟・社會に大被害を與へた。韓正は上海ロックダウンの混亂の責任者として李強の更迭を迫つてゐる模様と、英 FT（2022.5.8附）が報じた

李強を巡る攻防は、習近平の三期目連任が順調に行くか否かの分かれ目になつてゐる……

321頁 長老との對立：長老連は習近平にとり煙たい存在……

長老の御意見など聞き流しておけば足りるのに、神經質な習近平は中央辦公室を使つて黙らせようとする（小物の證據）。

327頁 習近平は最後の戦ひに敗北する

著者福島香織さんの“希望的觀測”廣西チワン族自治区で習近平版紅寶書が大量配布されて間もなく、その回収・破棄が命じられた。紅寶書を讀んで勉強する農民や學生らの宣傳寫眞もネットから削除。これは誰が指示したのか。黨中央の誰かだ。かうした遣り方が人民の反感を買ふと氣附いたのだ。

習近平が第二文革を發動しようとしても、人民は曾てのやうに熱狂しないのだ。

習近平は文革を仕掛けても失敗する。

328頁 人民を統制し世論を誘導すべく習近平はインターネットや SNS を利用しようとしてゐるが、多くの人民は SNS やインターネットを通じて、ロックダウンの上海で何が起きているのか、習近平政權が海外でどう評價されているのか知つてゐる。

中國が米國を凌ぐ大國になるといふ夢は、中國人として自尊心をくすぐられ、當初は習近平の煽動に乗る ネット紅衛兵的な若者も多かつた。だが現實にゼロ成長政策の矛盾に直面し、經濟が悪化し、食品エネルギー物價が高騰し、生活が習近平政權以前より悪くなつたと實感するやうになつて、習近平政權への期待も急減しよう。

中國人は政治的風向きに敏感で、習近平が絶對無二の強い權力者であり續ければ從順に忠誠を誓つて見せるが、一旦權力鬭争で劣勢になり敗色濃厚とみるや、掌を返したやうに バッシングするやうになる。

329頁 習近平は既に 10年、政權を維持した。この 10年 0間に、それまで中國が築いてきた改革開放の果實は踏みにじられた。2011年と今とは、どちらの中國が安定してゐるか？ どちらが暮しやすかつたか？

どちらに夢や希望があつたか？

330頁 2011年は 中國には公民運動家、人権派辯護士、労働運動家が存在した。地方政府級の汚職を果敢に暴く チャーリスト、政權に意見する學者も官僚もゐた。10年後 彼らは何處に行つてしまつたのか？ 10年後と今、どちらの中國が國際社會で尊敬されてゐたか？ あと10年、習近平に中國を任せれば、今より素晴らしい中國に發展すると思ふか？

習近平獨裁を續けさせれば、失政の連續で、結果的に中共は破滅し、寧ろ中國の民主化にとつてプラスだといふ逆説的意見がある。だがその選擇肢がより多くの犠牲を生むことは間違ひない。中國に友人や親戚がゐたり、恩恵をしてゐる人にとつては悪夢だらう……

……

だから、かうして念を送つておかう。習近平は最後の戦ひで敗北する。

あとがき

332頁 習近平が三期目となり個人獨裁體制が確立するのか、秋の20回黨大會で引退するのか、まだ判りませんが、習近平が中共王朝最後の皇帝として最後の戦ひに挑んでいるとは言へませう。

習近平は一體、何と戦つてゐるのでせう？

私は、習近平は敗北すると思つて本書を書きました。

彼の敵は彼自身が生み出してゐるからです。敗北せぬ限り、敵は殖え續け、苦戦は續く。

獨裁者といふのは概ねさういふ末路を辿る。

毛澤東のやうに死ぬまで戦ひ續ける場合もありませうが、誰も幸せになりませんから、やはり敗北なのです。中國が一時的に奇跡の安定・繁榮時代を迎へたのは鄧小平が中國の統治システムを集團指導體制（寡頭專制支配）に切り替へ改革開放路線に移行したからです。ですが集團指導體制も少しマイルドになつた專制システムに過ぎず、限界がきました。

その時、習近平が偶權力を握り、毛澤東式個人獨裁を復活させようとしてゐるのが現況です。

一讀されれば、習近平政權の十年間に齎された中國のディストピア化がお判りでせう……

日本人は先づ、中國に對する幻想や期待を徹底的に改めることです。

「習近平の最後の戦ひ」の行方は、日本人にとつて決して「高見の見物」では濟みませぬ……